

**渡岸寺** 徒歩で集落調査後、渡岸寺観音堂を訪問。



図9 高月町渡岸寺の大字領域



図10 渡岸寺観音堂 (荻野撮影)

12:00 昼食

13:30 調査を再開する班とヒアリング班で二手に分かれる。

**高月観音の里歴史民俗資料館** 同館にて同館学芸員佐々木悦也氏にヒアリング。  
観音信仰や湖北地方の拝殿、井郷、オコナイについて伺った。



図11 ヒアリング風景 (細井撮影)



図12 資料館での様子 (伊東撮影)

**雨森** 徒歩で集落内を調査。

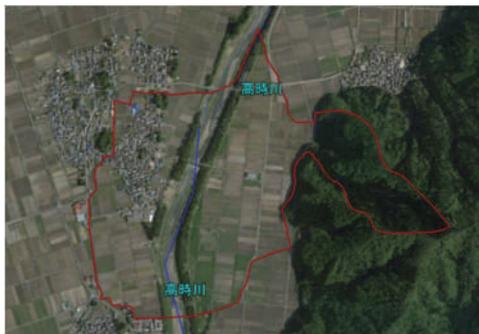


図13 高月町雨森の大字領域



図14 天川命神社前での調査風景 (伊東撮影)

井口 徒歩で集落内を調査。



図 15 高月町井口の大字領域



図 16 日吉神社の神池（荻野撮影）

16:30 調査終了。住吉屋旅館にてミーティングを行った後解散。



図 17 ミーティング風景（齋藤撮影）

11月3日（火）

伊東・謝の二名が高月町洞戸・尾山・雨森を追加調査、雨森芳洲庵を訪問した。



図 18 3日間の GPS ログ (Google Earth を基に齋藤作成)

---

<sup>i</sup> 図 1,3,5,7,9,13,15 Google map と e-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>)で公開されている  
小地域境界データ (2015 年) を基に筆者作成

### III. 大字ごとの集落構造の分析 調査

---

高月 町保延寺・雨森（細井）  
高月 町唐川（荻野）  
高月 町柏原（齋藤）  
高月 町東物部・西物部（東野）



図1 航空写真と大字領域 (Google Earthより)

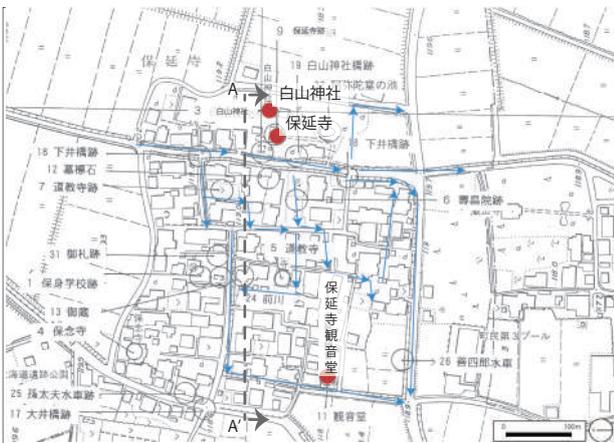


図2 保延寺集落構造 (『高月町村落景観情報』に筆者加筆)



図3 保延寺 集落と水路 (細井撮影)



図4 保延寺 水路付近のホース格納庫 (細井撮影)

### ○集落の立地

保延寺・雨森共に扇状地上の条里内に位置する集落である。集落東部には高時川が流れており、近江国伊香郡富永荘園比定地内において上流側に位置する集落である。

### ○集落構造(保延寺)

まず集落全体のかたちとしては、東西の用水路による枠の内、水路のクランクに沿って集落が密集している。大まかな水の流れの方向として、集落の北東から南西に向かってクランクをするように流れている。基本は北東から南西への水の流れに沿い敷地に面するよう水路が張り巡らされているが、集落中央の道教寺の敷地周囲では、時計周りに囲うようにして流れに逆らう水路も計画されていた。

一方で、集落内の建物の方向・道路においては明確な計画性が見られなかった。また、敷地内の建物と水路、住居同士の距離が比較的近く、集落内中央部分の屋敷においては、生垣などによる道路と敷地・敷地間の明確な境界も見られなかった。

道路から水路の水面までは階段2段分程度の高低差があり、敷地によってさらに盛土がなされるものの、本調査で訪れた集落と比較して水路との距離が近い。また、水路の幅は40～100cm程度と幅広く、防火や除排雪における用途が想定される。

水路の分岐点等には、自治体によって管理される止水板が見られる。ペンキの塗り替え等の手入れやホース等関連道具と合わせての収納がなされ、日頃から利用されている光景が確認できた。

集落の東部には保延寺阿弥陀堂・白山神社があり、土盛が成されていた。神社内には阿弥陀堂の池と呼ばれる溜池がある。保延寺内では社寺や各家の敷地内の畑には池があることが多く、特に南側に配置される傾向が見られた。また、集落南部には観音道がある。

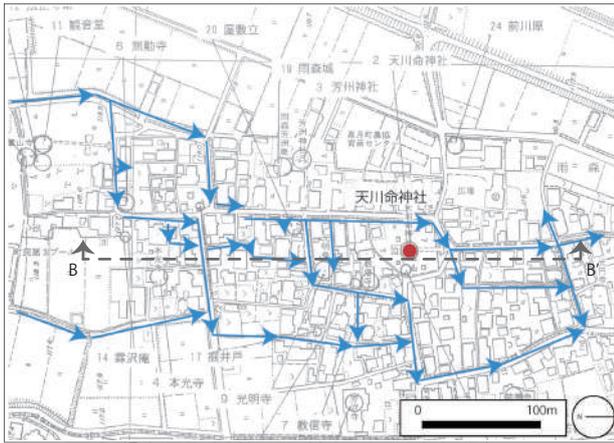


図5 雨森(『高月町村落景観情報』に筆者加筆)



図6 雨森 天川命神社参道(細井撮影)



図7 雨森 水路と住宅の関係(荻野撮影)

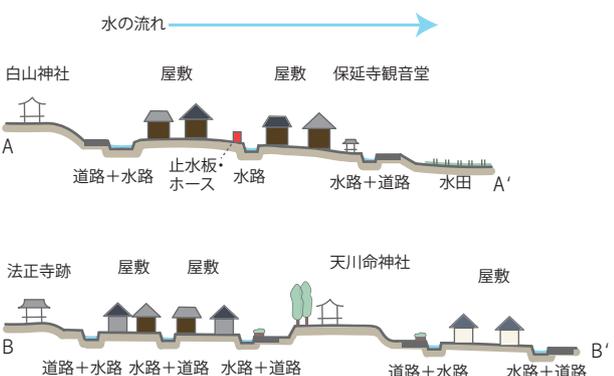


図8 断面ダイアグラム(上:保延寺、下:雨森、筆者作成)

### ○集落構造(雨森)

水路は全体としては主に集落の北東部から南西部に向かって流れており、水路を二股に分かれた後一つに合流するといった街路に沿ったブロックが連続する構成となっている。水路と街路が一体かつ先行して計画され、その中に住宅が計画されている。水路の上流部分には法正寺・観音堂等が位置する。集落内中央には天川命神社があり、集落を南北方向に通る参道の強い軸線が見られる。この神社の境内には樹齢300年以上(天川命神社境内の看板による、推定)のイチヨウの木や曳山蔵が確認され、付近にはまち歩きマップの看板も設置される。神社のある土地は1~2m程度土地が高くなっており、集落内の微高地上に計画をしたと推測される。道路から水面までは20cm程度であり、道路と敷地間の高低差は少ない。水路幅も保延寺に次いで比較的広い。いずれの住宅も水路に面するように玄関が建築されており、比較的新しく建てられた住居においても門前にコンクリート造の橋・水汲み場・階段等が設けられる。また、一部の住宅では水路沿いに流しを設置しており、食材の洗い物等の生活用水として使用する様子を確認できた。水路沿いには植栽・鉢植えが一定間隔で設置され、水車も確認できる。この水路のある景観は「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」の近隣景観形成協定の1号として認定されている。

### ○まとめ

保延寺と雨森の集落の外枠は、高時川が付近にあるという地形条件上、土地条件や取水条件によって計画されている。

水路と集落構造の関係として、高時川から取水した北東から南西方向の水の流れに沿いつつ、保延寺は先行する水路に対し街路や住宅が建てられた一方、雨森は水路と街路が一体に計画される様子を確認できる。

両集落に共通して水路と住居の距離が近く、水路の多様な利用法や管理組織が確認できたことから、水路が身近な存在として現在まで利用され続けたことがわかる。



図1 唐川の大字領域 (Google Earthより)



図2 南北方向の中心軸 (荻野撮影)



図3 東西方向の街路と水路 (荻野撮影)



図4 水路が参道に沿って北流する部分 (荻野撮影)

### ○集落の立地

湧出山の南麓に集落が形成されており、中ほどを余呉川支流の赤川が東から西へ流れている。赤川の南部には氾濫平野が広がっている。旧高月町域の最北端に位置する集落である(図1)。

### ○集落構造

集落の北限にある湧出山の山麓には、日吉神社、赤後寺、長照寺があり、宗教空間が集中している。そこから南に伸びる参道が集落の南北の中心軸となっている(図2)。各住戸へとアクセスするための生活道路はこれに直交する形で東西に数本通されている(図3)。そのうち北から4本目の街路には、幅の広い水路が通されており、参道との交差点付近には火の見櫓や集会所などがおかれており、主要な街路であることが分かる(図6)。

水路は集落内を通る赤川の流れと平行に、概ね東から西へと流れており、東西方向の生活道路に沿って通されている。参道を境に東西方向の街路が食い違う場所では、水路が一部参道に沿って南北方向に流れる場所もある(図4)。

水路は保延寺や雨森と比較すると、道路面から水面までが深く、水路へと降りる石段や洗い場などはあまり見られない。

また、東西方向の主要街路を境に、北側と南側で集落構造にやや違いが見られる。北側では参道が完全な直線であり、おおよそ等間隔で東西方向の街路が通されており、妻面が東西を向いている住宅が大半を占める(図7)。また参道に沿って水路が通る場所

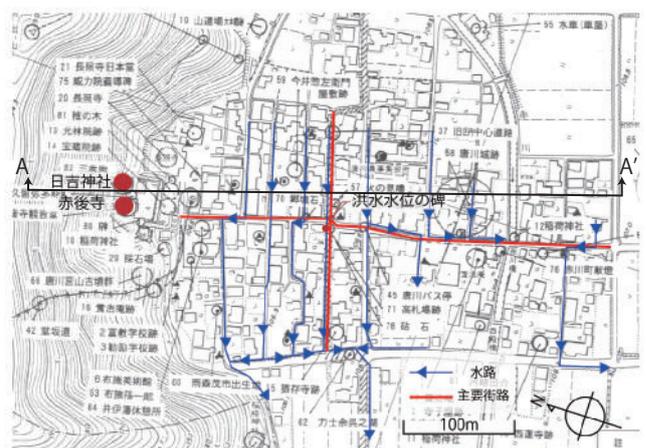


図5 唐川の集落構造 (『高月町村落景観情報』に筆者加筆)



図6 東西方向の主要道路と幅の広い水路(荻野撮影)

では、水が北に向かって流れている。一方南側では、参道がやや湾曲しており、東西方向の街路は間隔が不規則で、住宅の屋根の向きが一定でない(図8)。そして参道に沿う水路は南に向かって流れている。このように集落の南北で構造が異なることから、成立年代が異なることが推測できる。

### ○まとめ

山麓にシンボリックな存在である寺社が置かれ、そこから参道という中心軸が通されており、そこから東西にほぼ直線状かつ等間隔に生活動線が通されている。ここには北端の山によって生じたヒエラルキーをもとに、街路を引き、集落の構造を規定するという意図が感じられる。集落全体にこうした街路を中心とした計画性が見られるものの、南側ではその形態がやや崩れることから、南北で集落の形成年代が異なることが考えられる。



図7 屋根の向きが揃う集落北部(伊東撮影)



図8 屋根の向きが不規則な集落南部(荻野撮影)

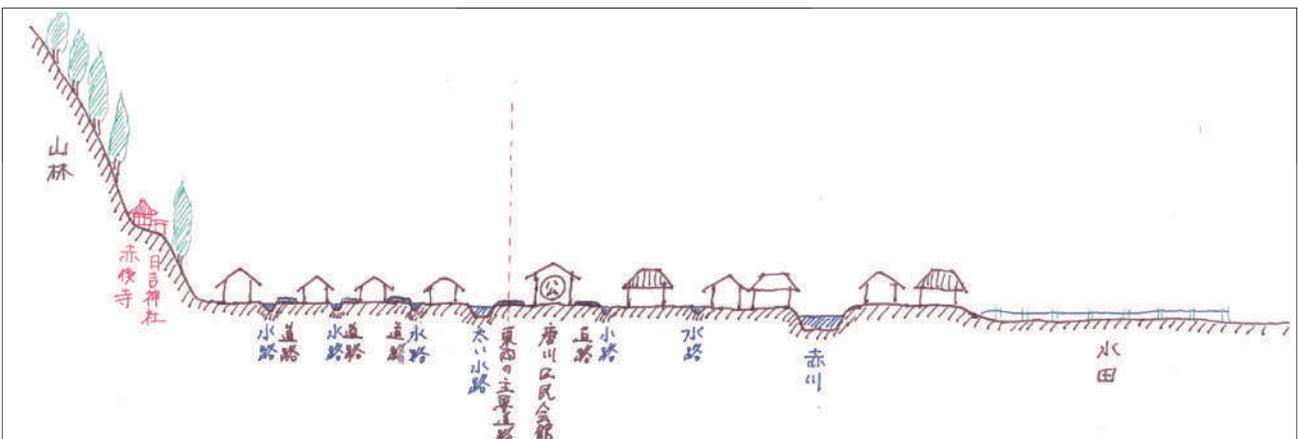


図9 A-A断面ダイアグラム(筆者作成)



図1 航空写真と大字領域 (Google Earth より作成)



図2 佐味神社と杉の木 (齋藤撮影)



図3 柏原の櫨の野神 (齋藤撮影)



図4 屋敷の間を直交するように流れる水路 (伊東撮影)

### ○集落の立地

柏原集落は高時川の近く集落は、川の右岸に立地している。集落を流れる水路の水は高時川から直接水を取得することはなく、集落北部である上流側の保延寺や雨森、井口といった集落群を經由し、水が分配される。また柏原の集落の南側(下流側)には渡岸寺や落川、高月、森本といった集落が連なっており、これらを一つの集落群とみなすなら、この集落群のなかで最も上流側に立地しているのが柏原の集落である。

### ○集落構造

柏原集落の北部端には三角形の敷地割をした佐味神社が立地している(図2)。敷地の三角形の鋭角が上流に向かう配置となっており、水を二手に分けさせるような水利の上での役割が考えられる。

また集落の東端には樹齢850年とも言われる櫨の巨木が野神として祀られている(図3)。また神社や阿弥陀堂などの建物群がある八幡神社の敷地も集落の東端に立地している。また八幡神社よりさらに東側、高時川に近い方向には、豊臣秀吉の長浜城主時代につくられたとされる太閤堤があり、現在でも若干の高低差を確認することができた。

集落の中をめぐる水路は、北から南へ、東から西へ、という流れが基本的であり、それぞれの二方向が直交するように巡らされている。水路が直交していることから集落構造において、ある程度の計画性を読み解くことができる(図4)。

水路は東西方向の流れが二本あり、この二本の東西方向の水路には、それぞれに沿うように道がある。これらの道は集落構造の中での骨格的な道となっている。この東西方向の水路と道の関係について、上流の北側から、屋敷→道→水路→屋敷というパターンとなる場合が多く、また屋敷は南を向いているものが多いことから、屋敷の裏手側に水路がめぐらされているという印象を受ける(図5)。



図5 屋敷の裏手側にめぐらされる水路 (伊東撮影)



図6 応因寺、敷地の奥に建物が立地 (齋藤撮影)

また東西の道に対して直交するような形で細長い短冊状の敷地となっている場合が多い。例えば応因寺は短冊状敷地の北側に建物があり、南向きのため、正面の道には接道せずに奥まったところに建物があるというアプローチとなる(図6)。集落内部のほかの寺院も短冊状の敷地割のなかでは北部側(つまりは上流側)に建物が立地していることがわかる。

### ○まとめ

集落全体としては上流からの水を分配するように水に素直な形となっているが、より詳細なスケールで集落内部の様子を見ると、整形された敷地割とその周囲に直交するように巡らされるような水路の形態であることから、集落構造に計画的な意図が読み解くことができる。

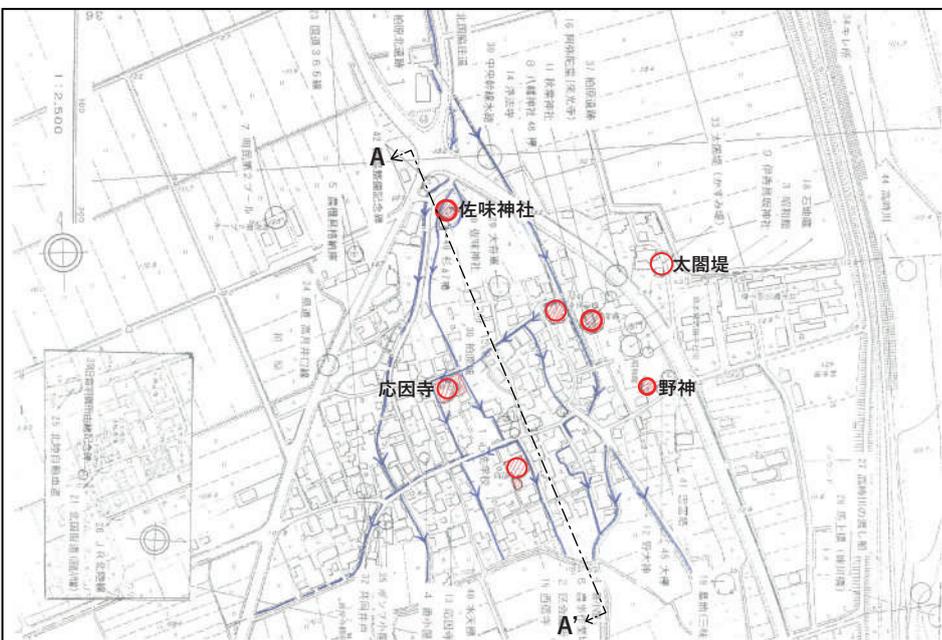


図7 集落構造と水路 (『高月町村落景観情報』に筆者加筆)

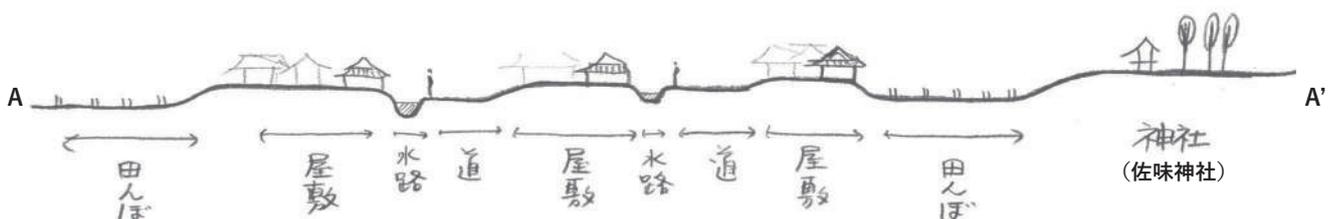


図8 断面ダイアグラム (A-A'で切断、筆者作成)



図1 航空写真と大字領域 (Google Earth より)

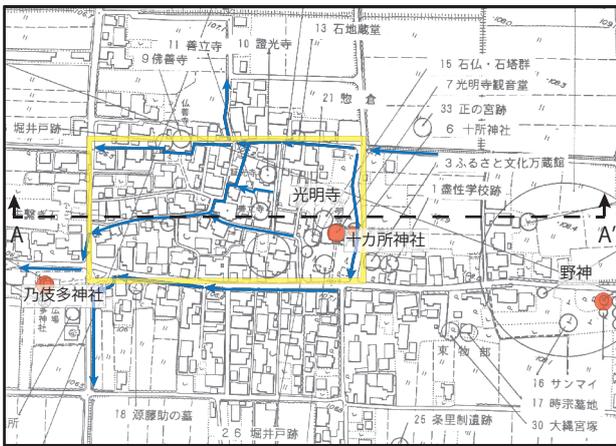


図2 東物部の集落構造と水路 (『高月町村落景観情報』に筆者加筆)



図3 西物部の集落構造と水路 (『高月町村落景観情報』に筆者加筆)



図4 東物部集落外枠の道と水路 (東野撮影)

### ○集落の立地

高時川と余呉川の間広がる平野に立地する集落。高時川上流の井堰から、保延寺などの集落を経由して水を引いている。東物部、西物部両大字全域に渡って条里が敷かれており、水路も大枠はそれに則り、東から西へと流れている。東物部・西物部両者とも、家屋の多くは自然堤防上に立地しており、周囲の氾濫平野には水田が広がっている。

### ○集落構造

東物部は大字の中心部とみられる条里の2坪分(1坪=約109m×109m)に家屋が集中しており、自然堤防の中でもさらに高まった場所に立地していた。周囲は条里に乗っているものの、その中を流れる水路や道は複雑で、あまり規則性がみられなかった。また集落の東には十力所神社、西には乃伎多神社が挟み込むように立地していた。十力所神社は光明寺観音堂と同じ境内の東側に立っている。他にも集落内に複数の寺院がみられ、特に北側に密集している。神社や寺院の周りには必ず水路が回っており、明確な計画意図が感じられた。他の集落と同様、「消防」と書かれた仕切り版が水路の近くに設置してあった。しかし保延寺や雨森など上流の集落と比べると枯れている水路も目立ち、現在では火災発生時を除いて、水路を日常的に使用する場面はあまりないように思われる。また東物部内の他の住宅は条里の1坪分を縦割り、横割りしたものに沿って建てられていた。一方、西物部は条里の1坪分の中に家屋が集中していた。その内部の構造は、条理をさらに縦横に分割したように道や水路が引かれており、その点において東物部とは異なっている。



図5 東物部集落内の道と水路 (齋藤撮影)



図6 複雑に分かれている集落内の水路(東野撮影)



図7 光明寺と十力所神社(齋藤撮影)

また、西物部、東物部両者ともに集落の東側には野神がみられた。野神の場所は他の集落でもみられたように、どちらも水路の上流側である。

東物部、西物部を比較すると、どちらも集落の外枠は条里に乗っているという点で一致している。これは、集落が川や山から一定の距離がある平野に位置しているため、高時川沿いの集落に比べて条里を敷くことが容易であったためであると推測される。一方、集落内部の構造に関しては、西物部よりも東物部の方が複雑である。これは、集落の成立年代と条里が敷かれた年代の順序に関係していると考えられる。東物部は先に集落ができ、それを取り込むように条里が敷かれたため、集落内部の構造はそれ以前のものの影響が強く残った。それに対して西物部は、条里が敷かれた後に集落ができたため、条里に影響を受けた集落構造となっているのではないかと推測される。

#### ○まとめ

集落全体の構造としては東物部・西物部ともに条里の形に則っており、水路も大枠ではそれに従って東から西へと流れている。一方で集落内部の構造をみると東物部の方が複雑である。これは、条里と集落の成立年代の順序に関わっていると推測され、東物部は先行する集落の影響が強く残り、西物部では先に敷かれた条里の影響を強く受けていると考えることができる。

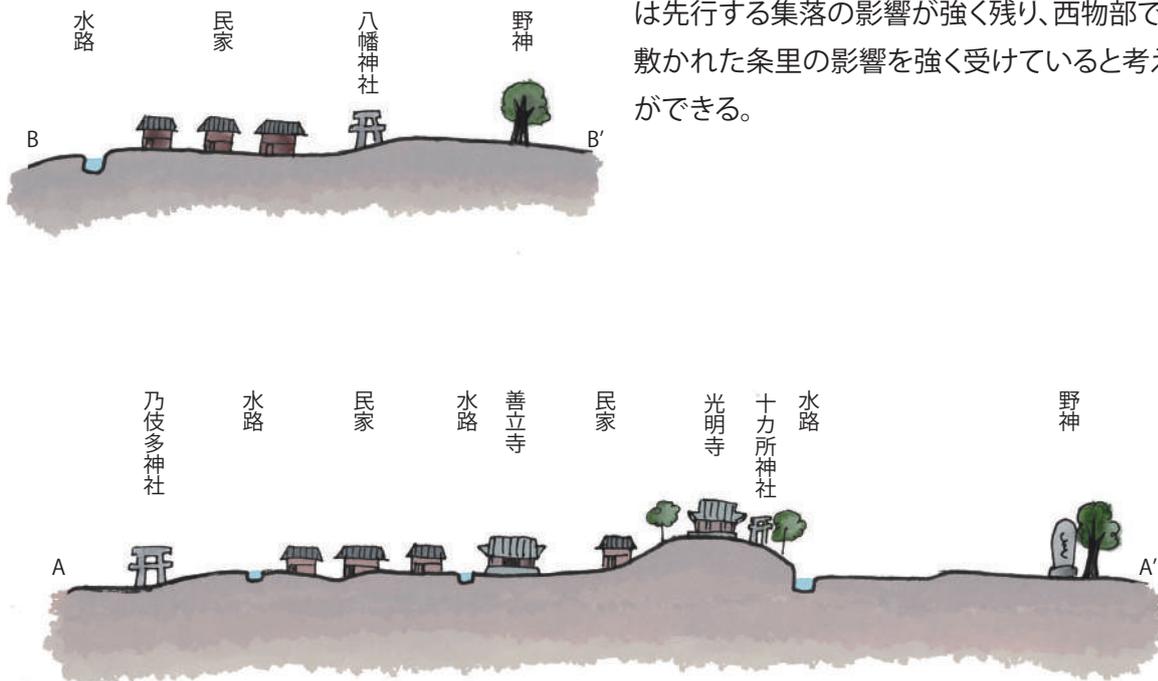


図8 断面ダイアグラム(上:西物部、下:東物部、筆者作成)

#### IV. テーマごとの分析と考察

---

水路と民家の距離感・水路の使い方について（謝）  
伊香郡富永庄における集落構造と土地条件の関係（荻野）

水路と民家の距離感・水路の使い方について

M1 謝筠鈺

0. はじめに

今回の調査では、ほとんどの集落が地面に露出した水路を維持していることを実見した。この報告においては、各集落の水路の異なるパターンと使い方を比較した結果を述べる。

1. 水路と民家の位置関係

各集落の水路は集落内部に伸びて、家屋の周りに巡りされている。保延寺、雨森、柏原、唐川などの集落では、水路のすぐそばに家屋が建っていることが見られる。水路と隣接する家屋は基本的に基礎が上げられていて、水害を防ぐために設置したと考えられる。また、各集落において、家屋が水路と面しているのは基本的に表側、或いは側面であり、裏手側が水路に面していたのは柏原だけである。



図 1. 保延寺 (謝撮影)



図 2. 雨森 (謝撮影)



図 3. 唐川 (荻野撮影)



図 4. 柏原 (荻野撮影)